

IV-124 新線によって連結された鉄道の流動に関する調査分析

日本鉄道建設公団 正会員 加藤新一郎
 野岩鉄道株式会社 福島 昇
 日本鉄道建設公団 大島 義行

1. はじめに

昭和61年10月9日、福島・栃木両県々境の山間部に、野岩鉄道会津鬼怒川線が第三セクター新線として開業した。今回、輸送実績分析と旅客流動調査を行った結果①東武鬼怒川線と会津線がつながる事による接続効果②観光路線としての特有な流動パターン③他交通機関から会津線への転換見込み量等が明らかになったので報告する。

2. 接続効果

図-1は会津鬼怒川線の開業から12月までの乗車人員の推移であるが、観光路線の特徴とも言える波動が表れている。即ち10・11月の行楽シーズンによるもの（開業ブームによるものを含む）と日曜日毎のピークが出ており、特に日曜日は平日の約2倍の利用状況である。

図-2は会津鬼怒川線の開業前後の輸送量の変化を示したものであるが、会津鬼怒川線で連結された東武鬼怒川線及び会津線とも輸送人キロの伸び率を見ると約8割増加している。この増加がさらに接続効果として捕らえられるものであり、この増加分をもたらした要因としては次の3点が考えられる。①首都圏から奥会津地方までの運賃が安くなり、時間も短縮された。②東武鉄道との相互直通乗り入れ効果があった。③温泉ブームとともに、宣伝により会津鬼怒川線ブームが起きた。

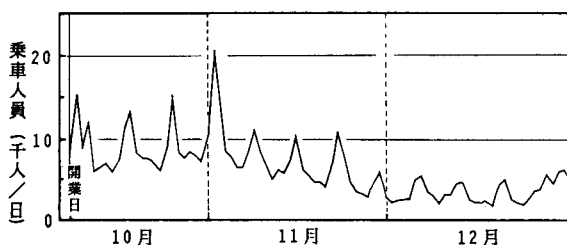


図-1 会津鬼怒川線乗車人員の推移

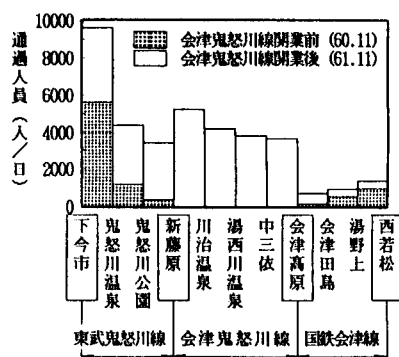


図-2 会津鬼怒川線開業前後の駅間通過人員（普通客）

3. 観光路線の流動パターン

旅客流動調査は会津鬼怒川線と会津線の接続駅である会津高原駅における旅客流動の把握と利用者の意識調査を目的として実施した。この調査は①会津鬼怒川線車内アンケートと②会津高原駅でのカウント調査の2つで構成し、この②は①を補完するものと位置付け、昭和61年12月14日（日）・15日（月）の2日間行った。車内アンケートを行った電車は2日間の上り・下り合計44本、このアンケートの調査項目は表-1の通りであり、乗客数及び回答数は表-2の通りであった。会津高

表-1 アンケートの質問項目の構成

利用目的 に関して	グループの人数 利用目的 キップの種類 乗車駅と降車駅（乗車券による）
交通手段選択 に関して	目的地 会津高原駅から先の交通手段 その交通手段の選択理由
会津鬼怒川線 の感想	選択肢（車内温度等） 意見記入

原駅における旅客流動結果は図-3の通りであり、会津高原駅でもどるUターン客が約4割いた事がわかった。会津線との乗り継ぎは約3割であり、自家用車は約2割を占めている。

表-2 日別乗客数と車内アンケート回答数

	乗客数	回答数	回答率
12月14日	1,587	1,299	81.9
12月15日	797	682	85.7
合計	2,384	1,981	83.1

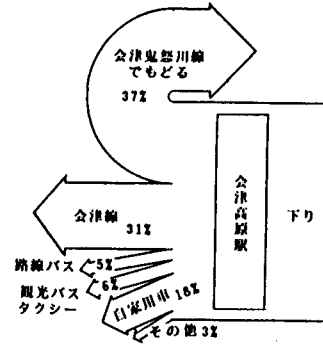


図-3 会津高原駅における旅客流動量

4. 他交通機関から会津線への転換見込み量試算

1) 目的地別交通手段選択

図-4は下りアンケートについての目的地別交通手段選択の変化を表したものである。会津線の利用は田島町（利用率70%）をトップに会津高原駅から遠くなるに従い若干漸減し、会津若松市以遠では6割となっている。一方会津線沿線外の南郷村・伊南村では鉄道利用率が20~10%、さらに館岩村・桧枝岐村においては地理的關係から会津線の利用はない。

2) 会津線への転換見込み量試算

現在、路線バス・タクシー・自家用車を選んでいる人が会津線へ転換する可能性があるとし、館岩村・桧枝岐村については会津線への転換は見込めないものとした。これによると転換が見込まれる人数は会津線利用者の50%となる。転換可能性がある人の交通手段を選択した理由を整理すると表-3の通りであり（回答総数 160件）、回答を分析した結果、現在の会津線利用者に対してサービス改善による転換見込み率は①列車本数の増加・接続改善で23%増（73件）②さらにその他強力な改善策で13%増（42件）と試算された。これらの改善策は転換客の発生だけに留まらず、沿線市町村に対し鉄道利用の誘発となって現れると考えられる。

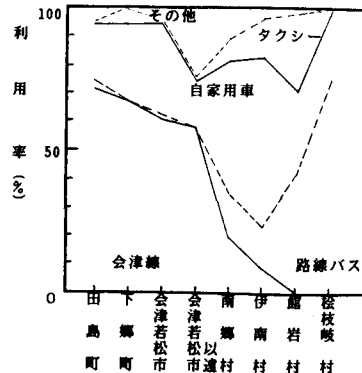


図-4 目的地別交通手段選択割合（下りアンケート）

5. おわりに

会津鬼怒川線は奥会津地方への足として定着しつつある。会津線もJR線から第三セクター線へと生まれ変わり、今後さらに地元の足・観光のルートとして運営されていくものと思われる。今回の調査結果によると、鉄道の利便性が向上すれば更に輸送量が増加するものと予測され、今後とも旅客に対してきめ細かな対応をしていく事により、より一層地元に着した鉄道になっていくと考えられる。

表-3 目的地・交通手段別選択理由

選択理由	目的地 交通手段			会津若松市・以遠			田島町・下郷町			伊南村・南郷村			合計
	バス	タクシー	車	バス	タクシー	車	バス	タクシー	車	バス	タクシー	車	
国鉄・バスの本数が少ない	①	①	①⑥		④	⑤			①	④			32
接続が良い			⑥	③	①			③		②			15
所要時間が短い			①⑦			④⑨						4	40
やむを得ず	①		⑧	①		③	3		5				21
料金が安い		①	①		1	5		1	5				20
その他			①①	1		13	1		6				32
合計	2	2	65	5	6	45	7	2	26				160

○ 列車本数・接続改善で転換が見込まれるもの

△ その他強力な改善策で転換が見込まれるもの